

因幡耐火遮音カバー (IRSP) 評価確認カード

上記枠内に下記の最寄の営業署名をご記入の上、F A Xにてお送りください。
楷書体でご記入ください。
現場単位でまとめて1枚の評価確認カードでお送りください。

施工内容

| | |
|---------|--|
| 現 場 名 | |
| 所 在 地 | |
| 施 主 名 | |
| 建築施工業者名 | |
| 設備施工業者名 | |
| ご 購 入 店 | |

ご請求枚数

| | |
|--------------------|---|
| 消防(共住区画)評価マークご請求枚数 | 枚 |
|--------------------|---|

評価マークは、一つの防火対象物(建築物1棟)に一枚です。
共住区画とは、消防法施行令別表第1(5)口項に規定されている「寄宿舍、下宿又は共同住宅」に適用されています。

施工のご確認

| | |
|---------------------------------|---|
| 本施工手順書に基づき施工完了された事をご確認の上ご署名ください | 印 |
|---------------------------------|---|

送付先

| | |
|---------|-----------|
| 貴 社 名 | |
| 所 属 部 署 | ご 担 当 者 名 |
| ご 住 所 | 〒 |
| T E L | () - |

因幡電機産業株式会社

〒550-0012 大阪市西区立売堀4-11-14 4F

<http://www.INABA-DENKO.com/>

| 営業所名 | 住 所 | 電話番号 | FAX 番号 |
|--------|---|--------------------|----------------|
| 札幌営業所 | 〒003-0030 札幌市白石区流通センター 6-3-22 | (011) 893-1783 (代) | (011) 893-1847 |
| 仙台営業所 | 〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町 2-2-34 | (022) 782-8521 (代) | (022) 782-5822 |
| 東京営業所 | 〒135-0042 東京都江東区木場 1-5-25 (深川ギャザリアタワーS棟 4F) | (03) 5633-5850 (代) | (03) 5633-5855 |
| 関東営業所 | 〒331-0852 さいたま市桜木町 1-11-1 (カナガワビル 6F) | (048) 642-1783 (代) | (048) 642-1756 |
| 多摩営業所 | 〒182-0033 東京都調布市富士見 4-16-17 | (0424) 41-1783 (代) | (0424) 99-1784 |
| 静岡営業所 | 〒422-8067 静岡市南町 18-1 (サウスポット静岡 15F) | (054) 282-1783 (代) | (054) 282-1772 |
| 金沢営業所 | 〒920-0853 金沢市本町 2-11-7 (金沢フコク生命駅前ビル 6F) | (076) 262-1783 (代) | (076) 262-1787 |
| 名古屋営業所 | 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 2-14-19 (住友生命名古屋ビル 5F) | (052) 541-1780 (代) | (052) 541-1791 |
| 大阪営業所 | 〒550-0012 大阪市西区立売堀 4-11-14 4F | (06) 4391-1940 (代) | (06) 4391-1945 |
| 広島営業所 | 〒730-0042 広島市中区橋本町 10-10 (広島インテス 5F) | (082) 221-2366 (代) | (082) 221-2368 |
| 高松営業所 | 〒760-0024 高松市郷東町 1-17 | (087) 881-1751 (代) | (087) 881-1796 |
| 福岡営業所 | 〒815-0082 福岡県福岡市南区大橋 3-12-34 | (092) 525-1782 (代) | (092) 525-1774 |
| 海外販売課 | 〒550-0012 大阪市西区立売堀 4-11-14 4F | (06) 4391-1920 (代) | (06) 4391-1935 |

商品に関するお問い合わせは、お近くの営業所へ、お気軽にどうぞ。

因幡耐火遮音カバー 施工手順書

国土交通大臣認定 PS060WL-0188 , PS060FL-0187

【PS060WL-0017 , PS060FL-0018】

消防評定 評 16-047 号 (共住区画)

【評 15-002 号 (共住区画)】

ご案内

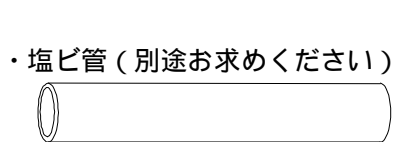
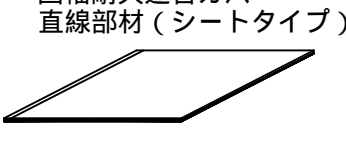
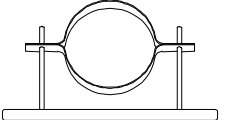
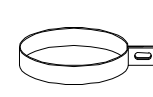
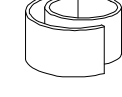
因幡耐火遮音カバーを使用した防火区画貫通部処置工法が(財)日本消防設備安全センターの評定を取得していることを示す「消防評定マーク」を用意しております。必要な場合は、4ページの「評価確認カード」を1現場につき1枚にまとめて記入し、お近くの弊社営業所までF A Xでお送りください。内容を確認した上で、「消防評定マーク」をお送りいたします。

注意：国土交通大臣認定の認定マークはありません。製品の直管部に認定番号を表示しております。

配管部材・工具等の準備

< 配管部材 >

- ・因幡耐火遮音カバー 継手部材
- ・因幡耐火遮音カバー 直線部材 (カバータイプ)
- ・ジョイントテープ
- ・配管支持金具 (耐火二層管用を別途お求めください)



注意：直管用塩ビ管は、別途ご用意ください。継手は、塩ビ管と因幡耐火遮音カバーが一体成型されています。支持金具は、同サイズの耐火二層管用をご準備ください。

< 施工具 >

塩ビ管用切断機、ハサミ又はカッターナイフ、メジャー、ウエス、マジックインキ、塩ビ管用接着剤などをご用意ください。

カバータイプ 施工手順

塩ビ管を規定の寸法に切断し、挿入代確認用の標線を記入します。ただし、継手の45°および異径45°に接続する場合は、継手の流入側遮音カバーが20mm長くなっていますので、挿入代+20mmに標線を記入してください。

耐火遮音カバー直管用で切断した寸法から継手の挿入代

(二カ所分)を引いた寸法に切断します。

ただし、継手の45°および異径45°について、流入側遮音カバーが20mm長くなっていますので、挿入代+20mm切断してください。

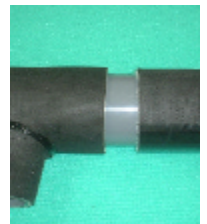
(注：流出側遮音カバーは、他の継手と同様に塩ビ管と面一です。)

因幡耐火遮音カバーを円筒形にならし、塩ビ管を差し込みます。1m以上ある場合は、因幡耐火遮音カバー同士を隙間が出来ないようにつぎ合わせ、ジョイントテープをしっかりと貼り、テープと因幡耐火遮音カバーをよく馴染ませてください。付属のジョイントテープは長さや幅をカットしないでください。

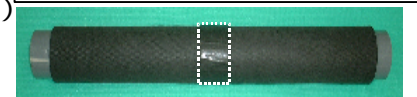
塩ビ管の接続は、塩ビ管外面の継手挿入代及び継手の受け口部を

ウエス等でほこり・汚れ等を取り除き、塩ビ配管用接着剤を塗布し、塩ビ管のあらかじめ記入した標線まで

継手にしっかりと挿入して下さい。



| 継手 挿入代 (二カ所分) |
|--|
| 40 : 44 mm、 50 : 50 mm、 65 : 70 mm、 75 : 80 mm、 100 : 100 mm、 125 : 130 mm、 150 : 160 mm |



| ジョイントテープ長さ目安 |
|--|
| 40 : 370mm、 50 : 370mm、 65 : 520mm、 75 : 520mm、 100 : 650mm、 125, 150 : 750mm |

因幡耐火遮音カバーの直管部材と継手部材は、隙間ができないようにつき合わせ、ジョイントテープで隙間が出来ないように貼って下さい。＜写真では、わかり易いように点線で囲んであります＞



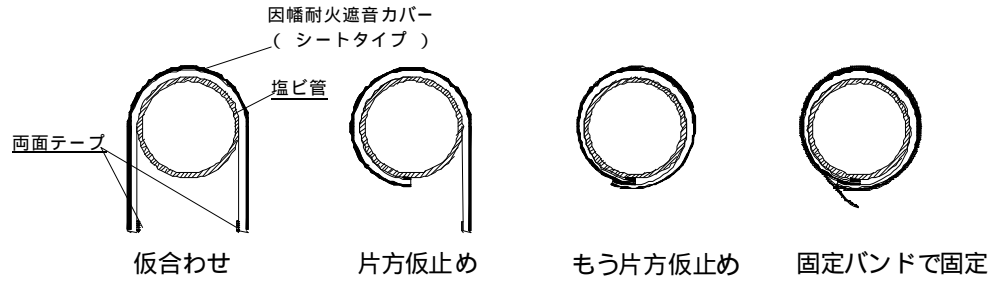
注意：付属のジョイントテープは、幅や長さをカットしないでください。隙間が無いようによく馴染ませて貼ってください。隙間があると遮音性能が低下するだけでなく、耐火認定の適用外になります。

配管後は耐火二層管用支持金具でしっかりと固定して下さい。ゆるい場合は端尺のカバーを巻いて固定してください。

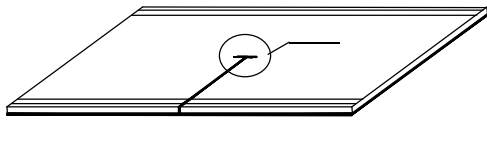
シートタイプ 施工手順（後巻タイプ）

<直線部の施工>

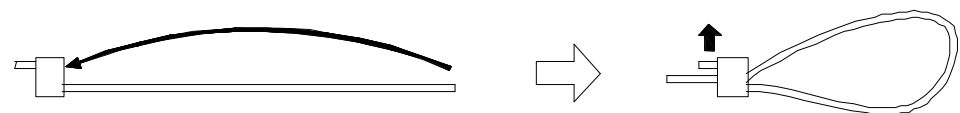
配管のほりや汚れをウエス等でふき取ります。
配管の寸法に合わせ因幡耐火遮音カバー（シートタイプ）を切断します。
白い面を内側に来るようにして配管に仮あわせをする。
白い面の離型紙の片方を剥がし、配管に仮止めしてください。この時配管と直角となるようにしてください継手の受け口や壁面に沿って巻き付けると容易に巻くことが可能です。
もう片側のテープの離型紙を剥がし、配管に沿うように貼り付けます。
同梱の固定バンドで固定します。目安として1m当たり4ヶ所、固定してください。



支持金具がある場合は、その位置に部分に下図のような切り目を入れてください。
支持金具を奥まで（下図 まで）差し込んで巻き着けてください。



固定バンドの使用方法は、下図のように先端 を本体 に差し込みます。位置変更などでゆるめる時はのレバーを矢印方向に引くとゆるめる事が出来ます。

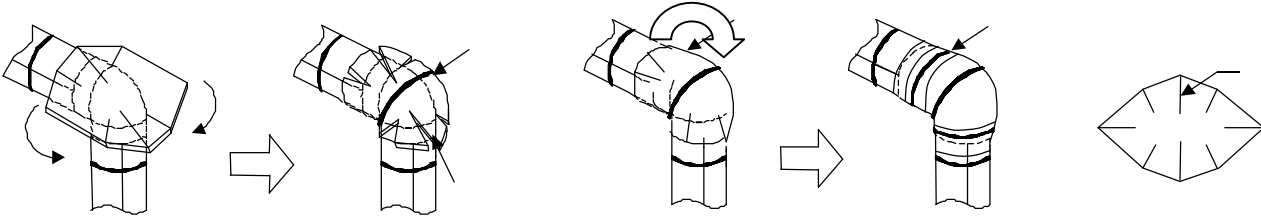


（注）区画貫通部分は、遮音カバーの長手方向にもジョイントテープで確実に張り合わせてください。

<継手部の施工>

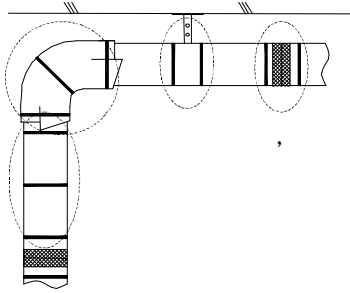
注意：
*** 継手の後巻き施工は、エルボ継手のみ可能です。**
*** 遮音シートは必ずオーバーラップさせて隙間が無いように施工し、遮音シートの切断面が見えないようにジョイントテープで確実に張り合わせてください。隙間があると十分な遮音・防火性能を得られません。**
*** ジョイントテープの貼り忘れや固定バンドの止め忘れは、遮音・防火性能を得られません。**
*** 防火区画貫通内部での継手の後巻きは、施工が非常に困難な為、行なわないでください。防火性能が保証できません。**
*** 継手が連続するような場合には施工が困難になります。直線部分を 300 mm以上設けてください。**

継手の型紙に合わせて因幡耐火遮音カバー（シートタイプ）を切断します。＜型紙は別途ご用意しております。＞
継手を包み込むようにして折り込みます。
中央部の 1ヶ所を固定バンド（別途ご用意ください）でしっかりと固定します。
切り込み部が重なるように折り込み、切り込みが見えなくなるようにジョイントテープを巻いてください。
で折り込んだジョイントテープの上を固定バンドでしっかりと固定します。
大曲エルボ（LL）に施工するときは、下図の用に切り込みをハサミ等に入れてから、施工してしてください。なお、切れ込みを入れた側が後から被さるように施工します。



<施工のポイント>

まず直管を施工してください。
巻き始めは、継手の受け口や壁面に沿って巻き付けると、塩ビ管に対して垂直に巻けます。
固定バンドは 1枚あたり 4箇所、固定してください。
余分に出ている固定バンドは、5 cm程度を残し切断しても結構です。
直管と直管のジョイントは、突き付けて隙間の無いように施工してください。
固定バンドはジョイント部から 5 cm程度の箇所固定してください。
支持金物の部分は先に寸法を測り T字の切れ込みを入れて施工してください。
固定バンドは、支持金物から 5 cm程度の箇所固定してください。
継手部の遮音シートは隙間が無いように合わせ、切れ目が見えないようにジョイントテープを巻いてください。
大曲エルボ（LL）は、切れ込みを入れて施工してください。
因幡耐火遮音カバーシートの合せ目、直管と直管並びに直管と継手の隙間、ジョイントテープ・固定バンドの固定を忘れてないか。確認して作業を終了してください。



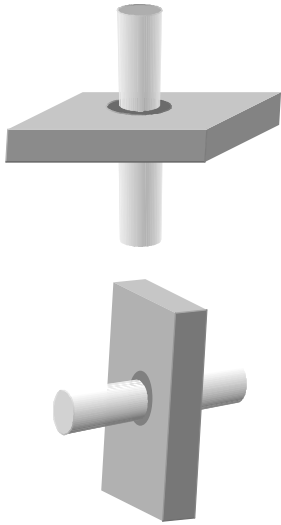
区画貫通処理方法

本製品は、直管・継手（呼び径 150 まで）を 100 mm以上のコンクリートまたは ALC の壁・床（開口面積 0.0491 ㎡以下(0.250m 以下)、占積率 直管:53.6%以下、継手 59.0%以下）にモルタルにて埋め戻すことにより区画貫通の国土交通大臣認定及び消防評定を取得しています。
集合継手については、上記の条件と異なりますので、別途、認定・評定書をご覧ください。

<カバ - タイプ>

<床貫通図>

認定・評定を熟読いただいた上で、
貫通開口部を設けます。
前記施工手順どおりに配管を施工します。
貫通穴をモルタルにて厚さ 100 mm以上埋め戻します。
埋め戻し部に隙間が無い事を確認して完成です。



<シートタイプ>

*** 防火区画貫通内部での継手の後巻きは、施工が非常に困難な為、行なわないでください。防火性能が保証できません。**

<壁貫通図>

認定・評定を熟読いただいた上で、
貫通開口部を設けます。
前記施工手順どおりに配管を施工します。
防火区画貫通部は、壁及び床面から前後 300 mm以上のシートの合せ目及びジョイント部に、別売のジョイントテープで隙間が無い様に施工してください。
貫通部を、モルタルにて 100 mm以上埋め戻します。
埋め戻し部に隙間が無い事を確認して完成です。

区画貫通の施工詳細に関しては、認定書並びに評定書をご確認ください。
集合継手を埋め戻す場合は、ヒートメルサイレンス(熱膨張性シート)同梱の取扱説明書をご覧ください。
紫外線や雨水などが当たらないように、屋内でご使用ください。
配管施工中には、耐火遮音カバー端部からの水の進入を防ぐように処理してください。
耐火遮音カバー内部が濡れると、遮音・耐火性能が低下することがあります。